

目次

新型コロナと読書イベント 中川恵理子 ... 29

特集：新型コロナ禍における書籍との戯れ

「大人の気づかい」をたくさんいただいた9ヶ月 栗原 慎治 ... 30

私を変えた1冊の本 宮丸由美子 ... 31

元気の処方箋『人物図書館～ひとはだれでも一冊の本である』 棚次 英美 ... 32

まさかの「大阪屋号書店」との邂逅 和知 剛 ... 33

『大学生のための速読法：読むことのつらさから解放される』の活用事例 山下真佑美 ... 35

「明智光秀」な一年 余田 葵 ... 36

参加報告：大学図書館研究会関東地域グループ合同例会

ドイツの日本専門図書館の取り組み 山口 和美 ... 37

新型コロナと読書イベント

中川恵理子

本学では、今年度の図書館イベントとして、オンライン形式でのビブリオバトルを開催しました。昨年までは、図書館のラーニングコモンズスペースで対面形式のビブリオバトルを開催していたのですが、新型コロナの状況を鑑みて、オンラインでの実施となりました。

初めてのオンライン開催ということで、スムーズな進行が出来たとは言い難いのですが(私が画面共有を忘れてイベントを進行してしまう等)、大きなトラブルもなく、無事にイベントは終了しました。今回、イベントに参加してくれた学生の多くは、ビブリオバトル初観覧者でした。場所を選ばず、クリックひとつで気軽に参加出来るという、オンラインイベントのよさが出たのだなと感じています。

ビブリオバトルは、発表者がお気に入りの本を5分間プレゼンし、発表された本の中から参加者全員の投票で一番読みたいチャンプ本を決定するイベントです。今回、4名の学生が、自分の好きな本についてオンラインで

熱く語ってくれました。本の紹介後にある質疑応答タイムでは、質問も活発に出て、参加者全員が楽しめたイベントになったと思います。

イベント運営を手伝ってくれた学生が、今回のオンラインビブリオバトルに「離れていても5分で好きが伝わる」というキャッチフレーズを考えてくれました。カッコいいですよね！とても気に入っています。このキャッチフレーズを聞いた時に、離れていてもオンラインで自分の好きな本に対する気持ちは伝えられるし、利用者に来館してもらえなくても図書館サービスだって出来るよねとしみじみとした気持ちになりました。

新型コロナの中で、学生の登校に制限がかり、思うような開館やサービスが出来ずに、もどかしく感じていた時期もありました。新型コロナで出来ないことばかりに目を向けるのではなく、新型コロナだからこそ出来る新たなサービスの可能性に目を向けて、新年度も頑張りたいです。

(なかがわ・えりこ／金沢学院大学)

特集：新型コロナ禍における書籍との戯れ

新型コロナ禍で、あるいは緊急事態宣言下で、なかなかお外に出られる機会が少なくなってきている会員も多いかと思います。

そんな無聊を慰める、書籍。最近気になる書籍について、会員からご寄稿をお願いしてみました。

さて、どんな書籍が飛び出すやら……

(担当：常任委員会報編集小委員 上村順一)

「大人の気づかい」を たくさんいただいた9ヶ月

栗原 慎治

大学を卒業して26年が経ちました。資格試験予備校、専門学校、大学と転職を重ねながらずっと教育機関での社会人生活を送ってきました。2年前から仕事の軸は教育からITにシフトしましたが、これまでの社会人生活を振り返ると、仕事でも、プライベートでも、こんな私のことをさりげなく助けてくれると、とてもうれしく感じます。仕事はいつも結果を出すことが求められ、チームが一つになって結果を出すために仕事をするを想像すると、自分の仕事だけしていることが仕事ではなく、周囲の人が仕事をしやすいようにすることで、仕事がうまく進んでいきます。周囲の人の個性や適性を理解して、仕事の効率を高めていくために、お互いにさりげなく助けること、あるいは助けてくれることに、日々感謝しています。このようにさりげなく助けることや助けてくれることは、「大人の気づかい」といってよいのかもしれませんが。

大学職員時代に、坂東眞理子さん（以下、坂東先生）の『女性の品格』を読む機会がありました。当時の勤務先は女子大学で、キャリアセンター勤務であったため、業務に役立つかと思い、手にした本です。この本を読ん

で当時の私は、著者の坂東先生は、仕事、服装、話し方、恋愛など、女性としての日常の振る舞いに、まさに品格がある方で、その仕事ぶりは完璧な方。スーパーキャリアウーマンだと勝手に印象づけていました。

2020年4月から12月まで大学図書館での仕事を再開する機会がありました。勤務先は坂東先生が現在、理事長兼総長を務める大学。『女性の品格』を読んで10年以上が経過して、坂東先生のお人柄に接することができました。

昨年4月は新型コロナウイルス感染拡大に伴い、大学が閉校となり、大学図書館も開館できない時期。勤務先では4月下旬から図書の郵送貸出と複写物の郵送サービスを開始。その後、教職員と在学生は、事前予約後に図書館を利用できるようになりました。大学図書館での新型コロナウイルス対策の実際を確認するため、坂東先生の姿を大学図書館でたびたびお見かけする機会がありました。また、利用者として図書館を利用されることもあり、その様子はとても親近感があり、とても柔らかな表情をされていました。スーパーキャリアウーマンとは異なる姿を拝見しました。この時期に出会った本が、坂東先生の『仕事も人間関係もうまくいく大人の気づかい』です。

この本を読んでいると、仕事ぶりは完璧と

いう印象もなくなっていました。坂東先生はいつも仕事があまりにも忙しすぎて、一人で仕事を抱え込むタイプではない方。仕事はチームで行い、チーム全体が成長するために、部下が優秀な人材に成長すること、そして優秀な人材が豊富なチームにすることを考え、実行されていることを知りました。仕事やプライベートでのたくさんの「大人の気づかい」エピソードが紹介されていて、その内容と文体は坂東先生の日常そのものであることに気づきました。そして、大学図書館に勤務する職員やキャンパス内で出会った方にも「大人の気づかい」が溢れていました。

この9ヶ月の大学図書館勤務ではたくさんの「大人の気づかい」に触れ、とても充実した期間でした。私の周囲でいつもさりげなく助けていただいたみなさんにとても感謝しています。

(くりはら・のりはる／

AppleJapan 合同会社)

私を変えた1冊の本

宮丸由美子

1冊の本によって人生が大きく変わったことについて述べたいと思います。

高校1年生の頃、高校の近くに町立の図書館が開館しました。

新しくてきれいな図書館。毎日のように帰り道に立ち寄りしました。ある日、いつものように図書館で本を探しているときに「小説沖田総司」(森満喜子著 新人物往来社1978)が目に入ったのです。

沖田総司が、幕末の新選組隊士であったことは、テレビの時代劇で観たことがあったので知っていました。この本の著者の本業は、医師です。このほかにも「定本沖田総司」「沖田総司幻歌」など数作、短編を書いています。

彼女が表す沖田総司像は、「病気で天逝した」「夢半ばで倒れてしまう、心優しく美しい若者」として魅力的に描かれています。

その夜、泣きながら読みました。

その時から、すっかり沖田総司と新選組にのめりこんでしまったのです。しかし、関連本は、図書館や書店にほとんどなかったため、町立図書館に、次から次へと購入リクエストをしました。まだ、できたばかりの図書館だったせいか、全てのリクエストに応じて戴きました。毎日のように通ううちに、いつの間にか、司書の方とも親しく話すようになっていました。ある日、私が、リクエストした本が、「他の利用者からもよく借りられている。」と言われた時には、とても嬉しかったものです。こうして、司書の方と話すうちに、次第に「図書館で働くこと」を夢見るようになっていました。

また、私は、元来、人と話すことが苦手で、いつも教室の隅で本を読んでいるような内気な性格でした。そのような私が、「小説沖田総司」と出会ったおかげで、「沖田総司」や“新選組”のことをいろんな人に知ってもらいたいと思うようになり積極的に話すようになったのです。やがて、小説を読むだけでなく、新選組について調べるようになり、日本史に興味が沸き、司馬遼太郎や山本周五郎といった時代小説を読み漁りました。

さらに、自分なりの「沖田総司像」を文章にしたいくなり、小説めいたものを書き始めました。そうすると今度は、人に読んでほしくなり、母親や友人に読んでもらうようになっていったのです。その影響で今度は、友人が新選組にのめりこみ、2人で公共図書館や県外の書店を巡るようになり、お互いに書いたものを読みあったり、調べたり、話したり、楽しい時間を過ごすようになりました。

このように「小説沖田総司」は、私自身の性格を前向きに変え、“図書館”と私を繋いでくれたのでした。

この本のおかげで、すっかり歴史好きになりましたので、現在はというと、日本の時代劇から韓流時代劇へと興味が広がっています。朝鮮史について調べながら、時代劇を鑑賞し、韓国語にも興味を持ち始めたところです。

今、こうして歴史好きになって、図書館に勤務することができているのも、「小説沖田総司」との出会いがあったからだと思います。

(みやまる・ゆみこ／九州産業大学図書館)

元気の処方箋 『人物図書館～ひとはだれでも 一冊の本である』

棚次 英美

新型コロナ禍の中で図書館サービスを提供することについて、どの図書館でも苦慮されていることと思います。先の見えない状態の中で、業務へのモチベーションや心の元気を保つことも大切なことだと感じます。そんな時の私の読む薬は『人物図書館～ひとはだれでも一冊の本である～』¹⁾です。

同書は3部構成で、第1部は編著者である坂口雅樹氏主催の企画「人物図書館」の記録、第2部は坂口氏の明治大学図書館在職中のエッセイ、第3部は坂口氏の退職後の思いの書下ろしとなっています。

そもそも、この「人物図書館」なる不思議な企画のことを知ったのは、同じ大図研会員の井上さんのブログから。「人物図書館」って何だろう？と思っている間に、この企画の記録は本になり、同書を大阪梅田の大型書店で見た時は、若干の興奮と共にレジに向かったことを思い出します。

「人物図書館」の内容は、一人の人間（話し手）が1冊の「本」となって、自分自身を読者（聞き手）に語り、会の終わりにはどの

話し手の話が一番印象に残ったのかを決める、いわばビブリオバトルの人間版のようなものです。（この企画では、「本」役をつとめているのは図書館員の方が多いのですが、大図研会員の方も「本」となって語られています。大図研の会報でも「人物図書館」が北海道で行われた時の紹介記事²⁾が掲載されています。）

同書購入時についていた本の帯には「これは人を本に見立てた物語である。図書館を、司書を元気にしたい、楽しく仕事をしてもらいたい—とってくれる人は実はあまりいない。司書自身も自分たちの「元気」については案外無頓着に生きている。人物図書館はそんな方たちへ贈る元気の処方箋！」と書かれていたのですが、謳い文句に偽りなしと確信しています。

読みながら「本」役の方の語りにも共感し、「本」役の方のおすすめ本と自分がすすめた本が同じであることに嬉しくなったりしつつ、色々な方の図書館に対する熱い思いに胸をうたれます。

焦るばかりでどうしたらいいのかかわからず、でも、どうにかしなくてはいけない、ブルーな気持ちになることも多い日々ですが、同書から元気をもらい、前向きに頑張りたい、そう思っています。

注：

- 1) 坂口雅樹編著、『人物図書館～ひとはだれでも一冊の本である～』郵研社、2019.
- 2) 千葉浩之「人物図書館 in 北海道」『大学の図書館』34 (12)、2015.12、p.240

(たなつぐ・えみ)

まさかの 「大阪屋号書店」との邂逅

和知 剛

二代目神田山陽. 桂馬の高跳び：坊っちゃん
講釈師一代記. 中央公論新社, 2020.12,
357p., (中公文庫, か-92-1)

この本に出会ったのは、毎年購入している「週刊ベースボール」の臨時増刊（選手名鑑）号を買うために先日出向いた書店でのこと。わたしは生まれてからこの方、講談にはほとんど縁がなく、NHK総合テレビで年末年始に放映していたのを見たことがあるような、ないような。亡父は広澤虎造の国定忠治ものが好きで実家にはLPレコードがあったけれども、虎造は「浪曲（浪花節）」であり「講談」ではないのであった（講談師というのは気位が高く、浪曲師を見下していたとは後年、立川談志の書いたものにあった逸話で知った）。

だから二代目神田山陽（1909-2000）という講談師の名前は目にしたことはあったが、その生い立ちも築いた名声も知らず、これまた先日どこかで名前を見かけた、最近人気の六代目神田伯山（1983-）が帯で「この本を文庫にするのが夢でした」と写真入りで口上を述べていたのに惹かれて、中身もろくすっぽ見ずに買って来たわけである。

標題紙を開けると、女優の沢村貞子の序文があり「自分の好きな将棋・ダンス・講談のために、莫大な親の遺産を惜しげもなく投げ出した神田山陽さん」などとある（なお「あとかぎ」に、沢村貞子夫妻の推挙があって光文社からこの本の初版が出たことが書いてある）。おやおやこれは、と本文に進むと著者が講談を講じている写真の解説（？）に「道楽、放蕩三昧に明け暮れて、はや50有余年。親から授かった巨額の資産を湯水のごとく浪費し、挙げ句は素寒貧という千変万化」いたいこのひとはどこの財閥の御曹司だったん

だろう、と見もせず飛ばしてしまっていた著者紹介（中公文庫なので表紙カバーの折返しに「著者紹介」がある）を見直して、いやこれはびっくりしたのなんの。二代目神田山陽は、「大阪屋号書店」の跡継ぎだった、というのだ。つまり二代目神田山陽が若い頃、放蕩の限りを尽くして潰した会社は、第二次世界大戦前に植民地で取次として活動し、いまや「幻の取次」となった「大阪屋号書店」だったのか。

もっとも「大阪屋号書店」という名称を目にして、いまさらびっくりするようなのはわたしだけなのかもしれない。わたしが大学図書館に勤務するようになってしばらくして、何かの折にNACSIS-IR（現在のCiNiiの遠いご先祖様）で検索をかけたときに第二次世界大戦前の出版者として名前を見かけたのが「大阪屋号」（何故か「書店」は外されている）で、その当時「大阪屋」という取次があるのは知っていたけれども（のち栗田出版販売と合併して「大阪屋栗田」。さらに社名を変更して現在は「楽天ブックスネットワーク」）、「大阪屋号」というその奇妙な名前はそのとき初めて見るもので、これはどのような会社だったのか、大阪屋と関係があるのか等、興味は湧いたものの、当時は調べるための橋頭堡もなく、そのままになって何年も過ぎていた。

改めて「大阪屋号書店」でGoogleを検索してみると「大阪屋号書店小史」¹⁾というお誂え向きの文献がオープンアクセスになっている。詳細はそちらに譲るが、大阪屋号書店とは二代目神田山陽（本名は浜井弘）の父親である、松江出身の浜井松之助（1874-1944）が一代で築き上げた、「外地専門の書籍取次店」（『桂馬の高跳び』40ページ）である。浜井弘はそのひとり息子で、大阪屋号書店が健在な頃は専務取締役を仰せつかったのだという。やりくり上手で商売を広げ一財産を築いた父親の資産を、放蕩息子は講釈場だ

ビリヤードだダンスだ将棋だ待合だと浪費した挙げ句に、潰れかかった八丁堀聞楽亭という講釈場のスポンサーになり、自らも「品川連山」と名乗って講談師になってしまう。聞楽亭をスポンサーするための資金は大阪屋号書店の金を、帳簿をごまかして出してしまうという有様。病に倒れた父親はごまかしがわかってはいたようだが（実に数字に細かいひとだったらしい）、もはや無言で圧力をかけることくらいしかできず、そのうち国家総動員体制のおおりで大阪屋号書店は取次も出版業も他社と統合されてしまう。

放蕩息子は統合でできた日本出版配給（日配）の役職の椅子を蹴ってプロの講談師を目指したものの、父親の死後間もなく徴兵されてしまい、軍隊では自慢の講談でどうか活路を見出したが、転属した中国戦線ではニセモノの飛行機を飛行場に見立てた平原に作って並べるといふ「児戯に等しいムダ苦勞」（166ページ）。敗戦後帰国してみれば、かつての大阪屋号書店は外地専門の取次だったため、植民地にあった支店と資産をすべて失って会社の再建は不可能。もともと会社経営には向いていないと思っていた放蕩息子はこれ幸いと、いよいよ講談師品川連山としてプロの道を歩み始めるが、講談では食えずあつという間に父親の残した不動産も売り払い、むかしとった杵柄でダンス教師の副業（伊藤道郎ダンス・スタジオの主任だったそうな）で食いつながる有様。そこへ「山春」という親分²⁾に出会って、その推輓で八代目桂文楽の身内になり、いきなり「神田小伯山襲名」という話が降って湧く。

斯様に御曹司にしては随分な、ジェットコースターのような人生七変化を、この本は過去の自分を面白がりながらも突き放したような筆致で綴っていく。小伯山を襲名してからの講談界でのあれこれも興味深い（女性講談師を弟子として入門させたのは二代目神田山陽が初めてだった）のだが、わたしにとつ

ては「大阪屋号書店」の衝撃が大きすぎ、その後の講談界での活躍（裏表紙の解説文曰く「講談を愛し、講談に尽くした「革命家」二代目神田山陽」との由）については、講談に詳しいどなたかに解説を譲ったほうがよさそうである。

最後にひとつ。二代目神田山陽はすでに妻が合ったにもかかわらず、八丁堀聞楽亭の娘と相愛の仲になっていた（121ページ）というのだが、彼女は戦後どうなってしまったのか気がなっている。

注：

- 1) 湯原健一、大阪屋号書店小史、愛知大学国際問題研究所紀要、2019.2, (153), p.87-124, <http://id.nii.ac.jp/1082/00009550/>, (accessed 2021-2-16) .
- 2) この「山春」氏、八代目林家正蔵の自伝『正蔵一代』（青蛙房）にも出てくる人物で、当時の蝶花楼馬楽が五代目柳家小さんになりそこなったとき、馬楽と大騒動を惹起して、先代が死んで空き名跡となっていた「林家正蔵」を若き林家三平から借り受けて馬楽に継がせ八代目正蔵とする、という大技を繰り出した当人である。

（わち・つよし/郡山女子大学短期大学部）

『大学生のための速読法： 読むことのつらさから解放される』 の活用事例

山下真佑美

1. 現実逃避

- 「先輩！来週の図書委員説明会、間に合わないかも！」
- ★「委員ハンドブックが完成しないの？」
- 「あれもこれも書こうとしたら、何十ページにもなりそうで」
- ★「それ読んでもらえないよ」
- 「気分転換に本でも読もうかな…図書館の本棚って眺めるだけで誘惑されますよね」

2. 先輩のお勧め本

- ★「ならこれ読んでみたら、『大学生のための速読法』（松崎 久純 著／慶應義塾大学出版会）」
- 「速読？目にも止まらぬ速さでページをめくるやつですよ…どんくさい私には不可能です…それに本はじっくり読みたいし…」
- ★「食わず嫌いしないの。この本の速読法を使って読んでみましょう。説明するわ。」

3. 速読法実践

- ★「この速読法は、『全体をとらえてから要点をつかんで読む』ことを勧めてるわ。300ページくらいの本を90分弱で読むのが目標。まずは本文以外から、全体の雰囲気をつかむの。」
- 「目次によると全3章で、①速読について②速読法の説明③実践編みたいな構成です。副題は『読むことのつらさから解放される』で、126ページです。」
- ★「そこまで調べるのは15分ね。目次は何回読んでもいいわ。自分の現在地を意識してね」
- 「次、本文全部を15分ですか！間に合いませんよ。」

- ★「一言一句は読まないのよ。1ページあたり、気になる2～3行は読んでOK。見出しや図もぱっと見ながら、全体を把握するつもりで。ここでも目次を羅針盤にしてね」
 - 「気になるページは端を折ったり、フセンを貼ったり…図書館の本では厳しいですね。」
 - ★「まあそこは、紙でもはさんでいきましょう。これで半分は終わったわ」
 - 「…本当に大丈夫ですか？あんまり中身読めてないんですけど。」
 - ★「平気よ。全体をなんとなく理解できればOKの段階だから。次も15分で全体を見るんだけど、質問を立てて答えを探す意識でやりましょう。気になるところはあった？」
 - 「3章実践編、講義資料と論文の速読法です！興味ない分野だと目が滑るんですよ…あとは速読法の手順一覧の図も見たいです」
 - ★「じゃあそれを意識して15分・スタート！」
 - 「集中力いるなあ…」
 - ★「ここまできたら、40分かけて全体を読むの。ここでも目次を見ながら、全体の位置を意識して、特に気になるところは目印をつけて」
 - 「最後は10分で目印したところを読み返す、ですか。どうにか、終わりました！結局、全体を5回見ましたね」
 - ★「そうなるね。印象に残ったことは？」
 - 「目次をこんなに見返したのは初めてでした。これまでオマケ程度に思っていました。」
- ### 4. それから
- ★「委員ハンドブック、完成したんだ。おめでとう！」
 - 「なんとか…速読法で目次がすごく大事って思ったので、先に目次をじっくり考えました。本文を書くときも、全体のどの位置かを意識したら、削るところも見えてきました。」
 - ★「読むのと書くのは表裏一体だからね。速読法が速書法になったってとこかしら」
 - 「でも結構意識しないといつも通り読んで」

しまうんですね…」

★「小説やエッセイを読むのには不向きだしね。うまく使い分けがいるわね」

●「積ん読している新書とか講義資料は、速読法でどんどん読みたいです！」

(やました・まゆみ／広島大学図書館)

「明智光秀」な一年

余田 葵

2020年は新型コロナにはじまり、新型コロナにおわった年であったが、私にとっては光秀にはじまり光秀におわった年でもあった。2020年大河ドラマの主人公は明智光秀で、関連書籍を目にする機会が多かった。私は光秀ゆかりの地の出身で、ドラマ決定時から楽しみにしていたので、おうち時間は関連書籍を楽しんでいた。ブーム（が続いていることを願いつつ）に乗っかって、3冊ご紹介したいと思う。

まずは、明智光秀のことを知るならこの一冊ともいえる「福島克彦『明智光秀——織田政権の司令塔』2020、中央公論新社」である。新書で手に入れやすいのではないか。明智光秀という一人の戦国武将を、単なる「謀反人」ではなく、織田政権を支えた人物としてひもといている。柴田勝家や羽柴秀吉が前線に送り出されるなか、光秀は常に織田信長から近い場所を任されていた。それは、信長から信頼されているという証ではなかったか。生い立ちから、山崎の合戦まで、光秀がつくりたかった社会像を考えながら読み進めることができる。

続いて、「小和田哲男監修『明智光秀の生涯と丹波福知山』2017、福知山市役所」を紹介したい。226ページのフルカラーで、図版も豊富。お値段なんと千円！つくりだけを見ても買いたくなる一冊だが、それよりも内

容が濃く、光秀の生涯を知ることができおすすめである。光秀が築いた城下町・福知山市刊行だけあって、福知山市に現存する光秀の書状を翻刻しているところも興味深い。光秀がその生涯で多くの時間をかけた、丹波攻めの地図なども見ることができる。福知山という土地から、光秀の生涯を考えることができる書籍といえるだろう。

最後に、戦国時代と現代の課題を考える書籍として、「笹本正治『戦国時代は何を残したか——民衆の平和・神仏への思い・自然開発』2020、信濃毎日新聞社」を取り上げたい。民衆に焦点をあて、戦乱の世を人々はどう生き抜いたか、神仏や自然とどのように向き合ってきたかということ述べている。戦国時代というと、特定の武将に目がいてしまい、そこで生きていた民衆の存在はつい忘れがちになってしまうのではないだろうか。いつの時代でも、時代を変えるのは民衆だということ、新型コロナ禍ですこしばかり感じつつ、未来について考えさせられる書籍である。さらに、食糧難や自己利益優先主義という現代の課題を、戦国時代から続く課題であるとして、過去をしっかりと見据え、課題解決へ乗り出す必要性を説いている。新型コロナで混沌としたいいま、戦国時代から学ぶことは多いと考えられる。

「福知山音頭」には、「福知山 長田野越えて 駒を早めて 亀山へ」という歌詞がある。これは、光秀が拠点とした亀山城へ福知山城からの使いが行く様子を描いたものだ。私もこれにあやかって、新型コロナに翻弄される日々から、新型コロナと上手く共存できる日々へと、駒をすすめたい。

(よでん・あおい／京都地域グループ)

参加報告：大学図書館研究会関東地域グループ
合同例会

ドイツの日本専門図書館の取り組み

山口 和美

去る1月23日、ドイツ在住で、長年、国際交流基金のケルン日本文化会館図書館で勤務されている蓮沼龍子氏を講師にお招きし、関東3地域グループの合同例会が開催された。

同図書館は、主に日本に関する人文・社会科学系の図書約25,000冊、視聴覚資料約2,000点、雑誌約130タイトル、楽譜約1,000点を所蔵している。所蔵資料は、CiNii Booksのほか、図書・視聴覚資料はUSB Portal（ケルン大学・市立図書館目録）、雑誌はZDB（ドイツ雑誌総合目録）でも検索できる。

利用者には、日本語教育関係、ドイツ語で書かれた社会学・比較文化・風俗習慣・歴史・地理・旅行ガイドブックなどの図書、マンガ、文学、日本の映画・アニメのDVD（ドイツ語字幕付き）が人気らしい。同図書館では資料の貸出は無料だが、ドイツでは会費制をとっている図書館も多く、公立図書館も例外ではないとのこと。

同図書館に寄せられる問い合わせは、「平成天皇退位の時に被っていたものは何か」「戦国時代の火の起こし方」「浮世絵にある江戸時代の女性の髪形について」など様々だ。手元に25,000冊ほどの図書しかない状況で、こういった質問に対応するのはさぞかし大変なことだろうと思う。

ドイツで日本資料を探す場合、USB Portal¹⁾、Zeitschriftendatenbank²⁾、KVK - Karlsruhe Virtual Catalog³⁾、CiNiiなどを利用しているようだ。CiNiiで資料が見つかった

たとしても日本から借りることは難しいが、ドイツ国内にはNACSIS参加館が10館あり、国内で所蔵を見つけられることもあるという。

日本専門司書の協力体制としては、1995年にケルンで設立された日本資料図書館連絡会があり、日本研究資料を持つドイツ語圏の図書館間で相互協力や情報交換などを行っている。ドイツ以外の国における協力体制としては、英国のJapan Library Group、欧州日本資料専門家会議などがある。

新型コロナ禍において、ケルン日本文化会館は3月16日に閉鎖、同月22日に在宅勤務を開始した。その後、2チームに分けての出勤体制（4月22日～5月29日）を経て、6月2日から再開。近隣のケルン市立図書館が4月27日から段階的に再開、フランス文化会館図書館も5月18日から再開していたのには、会費制の図書館という事情もあったと思われる。

8月末からは感染者数が増え、11月2日に部分的ロックダウン開始、ケルン日本文化会館も再び閉鎖した。11月10日からは予約制で貸出を再開したが、12月16日からの第2次ロックダウンにより休館となった。今までのような場所の提供は困難であり、催し物はオンラインへ移行している。国立国会図書館のデジタル化資料送信サービスが海外の図書館にも提供されることになり、今後のサービス拡大に期待をしているとのこと。

新型コロナ禍で日常生活にも様々な制約が出ているが、新型コロナ禍を機にオンラインサービスが充実してきたことは喜ばしい。今回のように海外の方を講師にした例会が開催できるようになったのも、オンライン会議が浸透してきた結果である。新型コロナ禍が終息しても、時にはオンライン例会も開催していただけるとありがたい。

1) https://www.ub.uni-koeln.de/index_ger.html

38 大学の図書館 40巻3号 No.568

2) <https://zdb-katalog.de/index.xhtml>

3) <https://kvk.bibliothek.kit.edu/index.html?lang=en&digitalOnly=0&embedFulltitle=0&newTab=0>

(やまぐち・かずみ／武蔵大学図書館)

2020/2021 年度会費納入のお願い

大学図書館研究会事務局会費徴収担当

大学図書館研究会の会費は、会則第16条に定められているとおり、前納制です。

大学図書館問題研究会則（抄）

第16条 この会の経費は会費、事業収入および寄付金でまかない、会員は会費として年額5,000円を前納しなければなりません。

（中略）

4 この会の会計年度は7月1日よりはじまり、翌年6月30日に終わります。

会費納入がお済でない会員各位、会費の納入をお願い申し上げます。
グループご所属の方は、グループ活動費も合わせてお納めください。
会の安定的な運営のため、ご協力をお願い申し上げます。

【問い合わせ先】

会費納入について：事務局会費徴収担当 kaihi@daitoken.com

新規会員募集について

大学図書館研究会事務局組織担当

日頃より組織運営にご理解、ご協力を頂きましてありがとうございます。

さて当研究会では図書館にご関心があるより多くの方に、知見を広げる機会をお持ち頂くだけでなく、ご自身の知見も共有し、様々な活動を一緒にして頂くために、新規会員を募集しております。

会員の方はご存じの通り、会報『大学の図書館』の購読、全国にある地域グループや研究グループによる様々な例会イベントへの参加、メーリングリスト dtkML を使った情報共有など、有意義な会員特典がございますし、ご自身の関わり方次第でさらに様々な経験をして頂くことが可能です。

図書館関係者の皆さまにおかれましてはぜひ、周りの皆さまへのご周知方についてもご協力を賜りますようお願い申し上げます。

一步踏み出したいという意欲を持った方々のご入会を心よりお待ちしております。

大学図書館研究会 入会案内・入会申込ページ

https://www.daitoken.com/admission_guide/index.html

会員情報（会報の送付先住所、メールアドレス、所属など）について変更があった場合は、その都度、組織担当までご連絡をお願いいたします。

会の安定的な運営のため、ご理解ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

【問い合わせ先】

入退会および会員情報について：事務局組織担当 soshiki@daitoken.com

□大学図書館研究会出版部 (出版物購入・問い合わせ窓口)

〒195-8585 東京都町田市金井ヶ丘5-1-1 和光大学図書・情報館気付

Fax: (044) 989-2250 E-mail: shuppan@daitoken.com

<出版物購入代金等振込先> ゆうちょ銀行 振替口座: 00140-6-482205 大学図書館研究会出版部

三菱UFJ銀行 越谷駅前支店 普通口座: 1403054 大学図書館研究会出版部

□大学図書館研究会事務局

〒305-8550 茨城県つくば市春日1-2 筑波大学図書館情報メディア系 吞海研究室気付

E-mail: dtk_office@daitoken.com

<会費振込先> ゆうちょ銀行 振替口座: 00190-2-79769 大学図書館問題研究会

第52回全国大会実行委員を募集します

第52回全国大会 実行委員長 磯本善男

第52回全国大会の実行委員を募集いたします。第52回全国大会は、第51回大会同様オンラインでの開催を予定しております。

- ・任期は、全国委員会に関係する業務が終了するまでとなります。残務整理もありますので、2021年12月末を目途にお考えください。
- ・担当内容は、応募者と協議の上決定しますが、ご希望の業務では無い場合があります。主な業務は、以下の分野です。(プログラムは検討中のため、変更になる可能性があります。)

ウェブサイト、広報、企業協賛、会計、議案書号、予稿集、基調講演、シンポジウム、研究発表、当日の運営

大会日程: 2021年9月中旬～下旬を予定

ご協力いただける方は以下までご連絡くださいますよう、お願いいたします。大会当日に参加できない等のご事情がありましたら、随時ご相談を承ります。

ご質問や話を聞いてみたいというご連絡も歓迎いたします。

【お問い合わせ先】

全国大会実行委員会: taikai@daitoken.com